

普及活動情勢報告

情勢報告（平成28年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

J A 四万十シシトウ出荷検討会・栽培講習会の開催



6月3日、J A 四万十本所において、J A 四万十シシトウ研究会を対象に講習会を開催し、生産者12名が参加しました。

普及所は、これからの栽培管理、病虫害防除、農薬の適正使用などについて説明しました。

参加した農家からは、防除薬剤や防除間隔、腐敗果対策についての質問が多く、特に斑点細菌病に対する防除対策の関心が高かった。

今年から、シシトウでも営農アドバイザー制度が導入されたことから、J Aとも連携して現地指導を行っていきます。

枝豆研究会の設立総会を開催



6月6日、枝豆研究会の設立総会をJ A 四万十の会議室で開催し、生産者10名が参加しました。

町役場とJ A、普及所と枝豆プロジェクトチーム会を設置し、昨年度から産地化に向けて取組んできました。生産者が12名となり、更なる栽培技術の向上や面積拡大に取り組むため、研究会を設立することになりました。設立総会では、今年度の事業計画として、農作業の省力化を図るため、共同利用できる枝豆脱莢機の導入や、その脱莢機の管理規定についての協議が行われました。

今後も普及所では、関係機関と協力して枝豆の産地化に向けた取組を支援していきます。

高知大丸で四万十茶のテストマーケティングを実施



5月28～29日、J A 高知はたが高知大丸地下食品売り場において、四万十茶のテストマーケティングを実施しました。

普及所はJ Aの職員と共に、買い物客への冷茶の提供や、アンケート調査を行いました。2日間で約700杯の冷茶を提供し、105人がアンケート調査に協力してくださいました。

アンケート結果では、85%の方が提供した冷茶は「やや好き」「非常に好き」と答え、パッケージについても85%の方が「やや好き」「非常に好き」と答えており、一定の評価を得ることができました。

普及所では、この結果を生かしてJ Aと協力し、四万十茶のブランド化を進めていきます。

ニラ部会通常総会の開催



6月7日、J A四万十ニラ部会通常総会が、四万十農協会館で開催されました。

総会では、事業実績と収支決算、事業計画と収支予算、役員改選等について審議され、承認されました。

その後、市場や園芸連担当者からは市場動向、J Aからは平成28園芸年度出荷販売状況について報告がありました。

普及所からは、ニラ農家の経営状況、産地課題の取り組み、実証試験結果及び計画についての情報提供を行いました。

今後も、J A四万十と連携し、農家の経営安定及び栽培技術向上に向けて支援を行っていきます。

集落営農塾（会計処理）の開催



6月15日、農村環境改善センターにおいて、J A四万十と町役場、普及所が連携して集落営農塾を開催し、本年度から飼料用米等の共同販売経理を行う「こうち型集落営農組織」7組織9名が参加しました。

集落営農塾では、こうち型タイプの取り組みに必要な共同販売経理についての会計処理などの研修を行いました。

普及所からはこうち型タイプで取り組みに必要な共同販売経理の流れや、収支と利益の分配についての指導を行いました。

今後は、J A四万十や町役場と連携し、集落営農組織の設立、ステップアップ、法人化などを支援していきます。

J A四万十厳選にこまる研究会（現地検討会）の開催



6月21日、水稻品種「にこまる」の現地ほ場で、J A四万十が現地検討会を開催し、研究会員7名が参加しました。

現地検討会では、溝切り機を用いた溝切りの実演会と各生産者の現在の生育を確認するとともに意見交換しました。

普及所は、これまでの生育状況や中干し、溝切り、調整肥についての効果や方法についての指導を行いました。

今後は、J A四万十と連携し、「にこまる」の品質向上に向けた栽培技術を指導していきます。